

市立函館病院に通院・入院中または過去に通院・入院された
患者さままたはご家族の方へ

当院では、下記の研究を実施しております。
本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の連絡先へお問い合わせください。

2025 年 02 月 07 日

研究課題名	Fracture Liaison Service のデータベースを利用した道南地域における大腿骨近位部骨折患者の二次骨折発生に対する危険因子の抽出
研究機関名 長の氏名	市立函館病院・病院長 森下 清文
研究責任者名 所属	市立函館病院・整形外科 山本 祐司
[多機関共同研究] 研究代表者	なし
[多機関共同研究] 共同研究機関名 研究責任者名	なし
研究の目的	近年、本邦のみならず世界的に高齢化が進んでおります。道南地域も高齢化の一途にあり、加齢に伴って生じてくる骨粗鬆症を背景とした骨脆弱性骨折（立った姿勢からの転倒かそれ以下の外力で発生する骨折）の一つである大腿骨近位部骨折（太ももの骨が股関節の近くで骨折）の発生が非常に多くなっております。 大腿骨近位部骨折を受傷した多くの方で手術治療が必要となり、患者さま本人の日常生活の質の著しい低下につながるだけでなく、患者さまのご家族も含めて身体的・精神的負担となり、また医療費の増加と言った社会的負担にも繋がっております。そのため、一度発生した骨脆弱性骨折の後に次の骨脆弱性骨折（二次骨折）を生じさせない取り組みが本邦でも盛んに行われております。 その取り組みの一つに Fracture Liaison Service（FLS：骨折リエゾンサービス）がございます。“リエゾン”とはフランス語で“連絡係”“連絡窓口”“つなぎ”を意味します。FLS の目的は、様々な職種の連携により骨脆弱性骨折患者に対する“骨粗鬆症治療開始率”と“治療継続率”を上げ、転倒予防を実践することで二次骨折を防ぐ取り組みでございます。当院でも 2023 年 12 月から FLS を開始し、1 年間で約 150 例程度の患者様の登録が完了しております。FLS の参加に同意を頂いた患者さまを対象に生活背景や骨折の種類、骨密度、採血結果、治療方針、転倒評価、認知機能、骨粗鬆症治療薬の服薬状況に関するデータベースを作成しております。今回の研究の目的は FLS 参加対象の患者さまのデータベースを用いて、道南地域における骨脆弱性骨折患者の骨折発生に関する危険因子を解析し、二次骨折予防に向けた患者さま及びそのご家族の皆様へのフィードバックと研究結果を広く社会に公表していくことで骨脆弱性骨折及び骨粗鬆症の治療の質を改善することを目標としております。
研究の方法	〈対象となる患者さま〉 大腿骨近位部骨折で手術治療を受けた患者さま 〈利用する情報〉 患者さまの基本的背景（年齢・性別・BMI・生活環境・受傷前後の ADL 評価・栄養状態・転倒評価項目・運動機能評価）認知機能評価・骨粗鬆症治療薬ないし他合併疾患の服薬状況（内服薬の種類・服薬継続）・単純 X 線または CT による骨折型・DEXA 法による骨密度評価・骨代謝マーカを含む採血検査
研究実施期間	実施許可日（情報の利用開始日：2025 年 2 月頃）～ 2028 年 3 月
他の研究機関への 試料・情報の提供	他の機関への試料・情報の提供はない
外国への 試料・情報の提供	なし

個人情報の取扱い	この研究に関する資料やご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さまの個人情報や研究に支障となる事項以外はお知らせすることができます。 研究に利用する患者さまの情報に関して、お名前、住所など、患者さま個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は利用いたしません。
連絡先・相談窓口	北海道函館市港町1丁目10番1号 市立函館病院 整形外科 山本 祐司 電話：0138-43-2000（代表）